

S3-04 人工呼吸管理のための教育の標準化 — 何のための標準化か？ —

徳島大学医学部 病態情報医学講座 救急集中治療医学
今中 秀光、西村 匡司

人工呼吸管理のトラブルは患者の生命に直結する。しかしその多くは人的トラブルである。患者の生命を危機にさらすトラブルを極力避けるためには継続した教育が必要である。一方、各施設によって人工呼吸管理に携わる職種は様々で、人工呼吸管理のシステムも異なる。さらに、換気モードにいたっては assist-control、SIMV、PSV など、どの換気モードを選択するかによって呼吸管理上の注意点は変わる。人工呼吸管理のための教育の標準化を議論するには、まず、呼吸不全の実態、人工呼吸管理に携わる職種の勤務実態、人工呼吸管理の方針などを調査するべきであろう。

次に教育法についても、各施設で異なってくるはずである。われわれの施設では、人工呼吸に対

する興味を育てることを第一の目標とし、実習を主体としている。実習の後、議論を行い、次の実習をつなげている。例えば、人工呼吸器をヒントなしで組んだ後、人工呼吸を交代で体験する。この間、残りの者は呼吸パターンや人工呼吸器のグラフィックモニタを観察し発表する。この方法は1人の教育者で数人にしか対象にできないが、受講者からの評価は高い。これらの経験を通して感じたことは、各施設に見合った教育法を模索するしかないということである。標準化という前に、誰を対象にするのか、何を目的に教育の標準化を考えるのかを明らかにし、次いで、何をどこまで標準化するのか、することができるのかを解析することが必要であろう。